

平成 22 年度 事務事業事後評価調書 (平成 21 年度事業)

整理番号 13 - 4

1 事務事業の表示

: 該当

事務事業名		救急車更新事業																
評価者	担当課名	消防	担当係名	警防係														
	管理職	職名 支署長(課長) 氏名 豊田通敏	作成者	職名 氏名	係長 佐藤和幸													
事業の概要		平成19年まで道立紋別病院で2次救急が受け入れられていましたが、医師不足により受け入れが困難となり、遠軽厚生病院及び名寄市立病院への搬送が増えており、3次救急に関しては、北見又は旭川までの搬送となっている。現在保有している転院搬送用救急車(2B型)は、平成7年式で走行距離が14万Kを超え、過酷な長距離転院搬送時にはトラブルも考えられることから救急業務に支障をきたさないために更新事業に至った。			<table border="1"> <tr> <td>全体計画</td> <td>(平成 21 年度 ~ 21 年度)</td> </tr> <tr> <td>国・道支出金</td> <td>18,700 千円</td> </tr> <tr> <td>地方債</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td>2,610 千円</td> </tr> <tr> <td>事業費計</td> <td>21,310 千円</td> </tr> </table>		全体計画	(平成 21 年度 ~ 21 年度)	国・道支出金	18,700 千円	地方債	千円	その他	千円	一般財源	2,610 千円	事業費計	21,310 千円
全体計画	(平成 21 年度 ~ 21 年度)																	
国・道支出金	18,700 千円																	
地方債	千円																	
その他	千円																	
一般財源	2,610 千円																	
事業費計	21,310 千円																	
実施方法		直営	民間委託	その他 ( )														
第5期総合計画(前期)		登載事業	非登載事業	優先度	B													
事業の位置付け	政策目標	4 うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～																
	基本施策	19 消防・救急・防災体制の強化																
	単位施策	3 消防・救急体制の充実																
	事務事業の種類	自治事務	法定受託事務															
	その他計画・根拠等	消防法、消防力の基準、救急業務実施基準																
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(見込)	23年度(計画)	24年度(計画)												
	国・道支出金	千円	20,000 千円	千円	千円	千円												
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円												
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円												
	雄武町負担額(一般財源)	千円	780 千円	千円	千円	千円												
	合計	千円	20,780 千円	千円	千円	千円												

593

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	救急車の老朽化	転院搬送時における、傷病者の負担軽減		
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	高規格救急車の導入により、車内が広くなり、隊員及び看護師の救命処置がより確実に実施でき、また、気道確保用資機材の導入により、転院搬送時における傷病者の呼吸管理の安全を目指した。	車両台数(1台)	目標年度	平成21年度
			目標値	1台
			実績値	1台
			達成度	100.0 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】 成果=目的	転院搬送時に、従来の救急2号車から高規格救急車に変わるにより、今までより確実に傷病者の負担が軽減される。		目標年度	
			目標値	
			実績値	
			達成度	%
内 容(どのような手段で何を行ったか)				
指名競争入札	指名業者2社を選定し、職員で救急車の艦装及び資機材の選定を実施し、指名競争入札により購入した。			

### 3 事務事業の評価(Check)

(1) 事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか、当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要 / 概ね必要 / 課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	平成17年に高規格救急自動車を導入し、救急2号車は転院搬送用として使用してきたが、転院搬送の増加及び管外搬送(旭川、北見名寄、遠軽)の長距離化により、現在ある高規格救急車で転院搬送を実施すると、高度な救命処置を実施できる高規格救急車が長時間町内になくなる点を考慮すると、救急2号車の高規格更新は必要である。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2) 事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効 / 概ね有効 / 課題あり	設定した目標値の達成状況	協議を重ねた上でもっとも効果的なものを購入したことにより目標は達成出来たと考える。
	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3) 事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的 効率的 / 概ね効率的 / 課題あり	判断の理由	地域活性化経済危機対策臨時交付金を活用し、かつ転院搬送用高規格救急車の艦装及び資機材(自動体外式除細動器MRXEからハートスタートFR2への切り替え、伝送装置の取り止め)の軽減を行い、一般財源への持ち出しを最小限に抑えた。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	

(4) 事務事業の公平性

公平 公平 / 概ね公平 / 公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	高規格救急車の導入により、以前の救急車より車内が広く医療資機材も充実し、町民(傷病者)に対する処置が安全かつ的確に実施できるようになり、傷病者の負担軽減になるため公平と考える。

### 4 総合評価【A～D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等  
 B: ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等  
 C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等  
 D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
高規格救急自動車を購入した事により傷病者(町民)の負担軽減が図られた。		

<b>今後の展開方向</b> (Action)	↓	↓	↓
	終了		

\* 展開方向の区分

継続 / 現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更      終了      休止      廃止

### 5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

国保病院医師及び看護師から、転院搬送用高規格救急自動車の導入により、車内での活動が効果的にできるようになったとの評価を受けた。
---